

目次	ページ
支部地域活動助成事業「四国のまちづくりに関する情報交換会&見学会 in OGIJIMA」・・・	1
第1回都市計画サロン「プレイスメイキングー豊かな暮らしの風景をつくるー」・・・	3
共催事業報告「徳山駅周辺でのエリアマネジメントの展開5」・・・	4
後援事業報告「スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム2024」・・・	5
ホットコーナー「釜山報告」・・・	6
会員紹介・・・	11
トピックス「逆線引き」、今後の活動計画・・・	12
編集後記・・・	13

■ 2024年度 支部地域活動助成事業報告 ■
 四国のまちづくりに関する情報交換会&見学会

日時：令和6年9月3日(火) 13:30~17:00

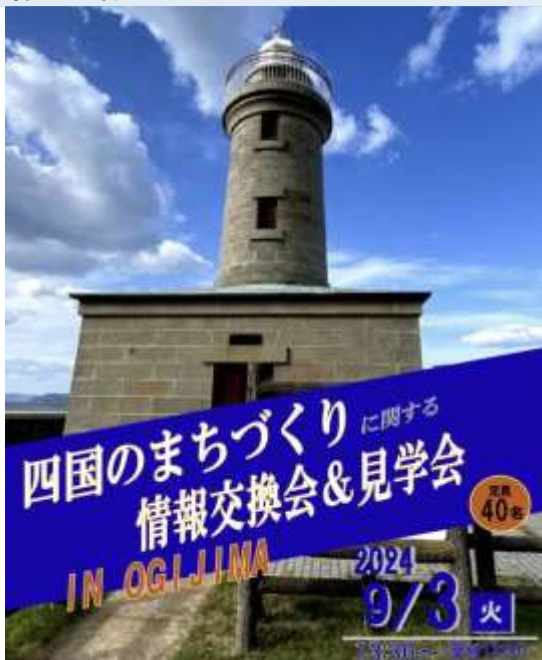
場所：男木コミュニティセンター

プログラム：

第1部：情報交換会 (13:30~15:20)

第2部：見学会 (15:30~17:00)

参加者：44名



2024年度地域活動助成事業として、「四国のまちづくりに関する情報交換会&見学会」を開催した。今回は「これ

からの島のまちづくり」をテーマに香川県高松市男木町(男木島)で行った。第1部の情報交換会では4件の話題提供がなされ、第2部の見学会では、男木島のまちづくりを主導する有限会社ケノヒの福井大和氏らが案内人となり、島内の居住エリアを中心に歩いて歩き、説明頂いた。

<情報交換会> 13:30~15:20

(1)「離島振興・スマートアイランドについて」

(国土交通省 国土政策局離島振興課 塚本邦芳氏)



塚本氏からは離島の現状や離島振興法、離島振興の取組例やスマートアイランドについての紹介がなされた。日本には14,120島の離島があり、このうち、離島振興法による離島振興対策実施地域に含まれる有人離島は256島(令和6年4月1日時点)である。離島では、人口減少と高齢化が進み、財政力も厳しい。そこで、昭和28年に地域格差の是正を目的として離島振興法が制定された。離島振興

法は 10 年ごとに更新され、法目的は後進性の除去から自立的発展の促進、定住の促進など、時代の諸情勢に応じて変遷している。また、支援内容は、従来の公共事業の補助率のかさ上げに加え、ソフト事業が加わった。実際、全国の離島で交付金を活用した様々な取組が行われている。近年では、ICT などの新技術・デジタル技術の離島への実相を図るスマートアイランドの実現に向けた取組が官民連携で実施されている。離島には高齢者が多いため、デジタル化にはまだまだ課題もあるが、厳しい自然的・社会的条件下にある離島が抱える諸課題は、ICT などの新技術・デジタル技術の活用を通じて解決できる可能性が大きいとコメントされた。

(2) 「10 年間の地域コミュニティの変化」

(有限会社ケノヒ 福井大和 氏)



福井氏は、自身が男木島で行ってきた取り組みやここ 10 年の島内の変化を語った。男木島はこの 10 年間で約 100 人が自然減している一方、のべ 100 人が移住しそのうち 50～60 人ほどが定住しているという。福井氏自身も男木島で生まれ、一度大阪に移った後男木島に U ターンしている。人口減少の一途であった島の転機となったのは、2010 年に瀬戸内国際芸術祭の会場となったことである。来場者は 9 万人を超え、1 日で約 3 千人が来島する日もあった。福井氏は 2013 年に自身が所属する協議会で芸術祭の PR 活動を行う際に、島が抱える課題から故郷がなくなることへの危機感を抱いたという。その最中、芸術祭をきっかけに島に興味を持った娘の「島に帰りたい」との言葉で、休校となっていた小中学校の再開活動を始めた。2 週間で 881 筆の署名が集まり再開に至ったが、このことは周囲の島にも好影響を与えた。また移住・定住者が増え、人口は減っているものの世帯数はあまり変化せず、休校当時にはいなかった子育て世帯が島のコミュニティを支える原動力となっている。福井氏は島に資源がない分、ソフト面や文化を大切に、「100 人を切らない島」を目標に活動を行っていくと語った。

(3) 「離島における先端技術の活用実績」

(西日本電信電話株式会社 香川支店 池口貴紀 氏)



池口氏からは、男木島の課題解決に向けたメタバースの活用方法についての報告がなされた。NTT 西日本は 2021 年から地域社会創出プロジェクトに着手しており、その一環として男木島でも取り組みを行っている。男木島では、定住・関係人口創出やインフラの補修・点検といった課題に対処するため、2022 年からメタバースを活用した実証事業を開始した。1 つ目の実証事業は、高松市や東京で開催されたメタバース体験会である。参加者は VR ゴグルをかけてメタバースで再現された男木島を見ることで、島の擬似訪問を行った。この体験前後における参加者の満足度や関心度の変化を計測した結果、メタバースは定住・関係人口創出に有効だと明らかになった。一方で、メタバース利用に必要な機器の低廉化など、実装に向けた課題も浮上した。2 つ目の実証事業は、メタバースを活用したインフラ点検である。メタバースと高松市保有の CAD データの差分を抽出することで、老朽化が進むインフラの候補箇所の特定に成功した。しかし、検証には膨大な作業時間がかかることや、人的稼働が必要であるという課題も確認された。そのため、AI やスマートマップなどの他ツールと連携させる必要性が提言された。

(4) 「スマートシティ基盤を活用したデジタル地図について」(株式会社 Geolonia 西川伸一 氏)



西川氏からは地域コミュニティの課題解決に対する位置情報技術の活用についての報告がなされた。自然災害の頻発化・激甚化、人口減による税収・労働力の減少といった社会課題に対しては、官民連携スマートシティの実現や地理空間情報プラットフォームの提供が必要であり、衛星データやセンサー情報ははじめとしたあらゆる位置情報データを集約した地図を作製・活用することができる。こ

これらの地図をもとに、市民生活に役立つ各種アプリケーションの製作や地図とその他ツールの併用を行うことで、行政処理の手間削減や市民生活の向上が図られる。また男木島では実際にスマートアイランドに向けた実証事業として、一人で暮らすお年寄りの安否を確認するための通信アンテナの設置や、自治会や消防団などの情報を共有するためのコミュニティ自治マップの運用を行っている。最後に西川氏は男木島の課題として、空き家が増加し把握が困難なこと、適切な防災対策の必要性等を示した一方で、男木島で地図情報を活用していく楽しさとしては、素晴らしい島の景観や、今後日本でより深刻になる社会課題をいち早く経験している地域であるためロールモデルとなれる点を示した。

<まちづくり見学会>15:30~17:00



見学会では、島内の居住エリアを中心に歩いて歩き、有限会社ケノヒの福井氏らから説明頂いた。2010年に開始された瀬戸内国際芸術祭を機に、男木港付近の整備が進み、情報交換会の会場でもあるコミュニティセンターもその際に新たに建てられている。台風などの災害時には避難場所としても活用されているとのことである。港を中心に山方面に広がる居住エリアは約 10 の区域に分けられており、区域ごとに設置されている掲示板によってイベント情報等の共有を図っている。情報交換会でも紹介された、お年寄りの安否を確認するための通信アンテナの設置箇所や、古い家屋をリノベーションして活用されている IT 関連企業の個人オフィスやコワーキングスペースなどを見て回った。

(文責：高塚 創)

■第 1 回都市計画サロン■

プレイスメイキング —豊かな暮らしの風景をつくる—

日時：2024 年 9 月 3 日 (火) 19:00~20:45

場所：広島大学東千田キャンパス SENDA LAB
(オンラインとの併用)

主催：(公社) 日本都市計画学会 中国四国支部

参加者：45 名 (会場+オンライン)

全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた数々の実践・研究に取り組まれている園田聡氏 (有限会社ハートビートプラン) をお招きし、長野県松本市での事例をご紹介いただきながら、これからの都市のデザインや運営について考えるサロンを開催した。以下、内容を報告する。

■講演

近年、豊かな暮らしの風景をつくるための、まちなかの公共空間を活用したまちづくりが全国で広がっている。プレイスメイキングとは、「豊かな暮らしの風景」をつくるために、そのプロセス自体をデザインすることを可能にする都市デザインの手法の一つである。長野県松本市の松本城三の丸エリアでのプレイスメイキングの実践事例にふれながら、これから人口が減り、都市間競争がますます厳しくなる中での豊かな暮らしの実現について考えていきたい。

松本城三の丸エリアは、松本城、旧開智学校という 2 つの国宝を有する歴史が折り重なった観光地であり、松本市民にとっても、来訪者にとっても、松本市の顔となるエリアである。一方、都市計画道路の拡幅など複数の公共事業の進行や相次ぐ大型商業施設の撤退発表など、エリア全体としてのあるべき姿をあらためて議論し、行政と民間で共有することが求められていた。

こうした中、園田氏が所属する有限会社ハートビートプランでは、2021 年度より松本市の委託を受け、地域の人々との膨大な議論・意見交換を行い、松本城三の丸エリアとしての未来を描き、公民連携で進めていくための道筋を描いた、「誰かに語りたくなる暮らし」という合言葉を軸とした「松本城三の丸エリアビジョン」を策定した。このビジョンは、地域の人々がビジョンを自分事に捉え、地域の人々の自発的なアクションをアシストするため、地域との対話を何度も積み重ね、地域の担い手となる「つかう」側主体のプロセスを大切にしたいビジョンとなっている。例えば、地域の人々へのヒアリング等をもとに、広範なエリアを一括りにするのではなく、エリア内を潜在力の高い (エリアの実情に即して地域を緩やかに区切った) 10 の界限に区分している。プレイスメイキングの手法の 1 つである「The Power of 10」の考え (10 以上の「アクティビティ」が共生している場合は豊かな「場所・界限」となり、10 以上の豊かな「場所・界限」が集まることで個性的な「エリア」となり、10 以上の「エリア」が集まることで魅力的な「市

街地」を形成するという考え方)により定めた界限ごとに目指す姿(アクティビティや場所の創造)を検討することで、地域の人々がやりたいことを、地域の資源の範囲で展開するための工夫がなされている。

2022 年度には、各界限の活動意思を最大限に尊重し、支援し、推進する基盤として、「三の丸エリアプラットフォーム」が設立された。ここでも、ビジョンの推進において地域の人々が主体となるための工夫がなされている。各界限でのプロジェクトについて、「やる・やらない」の選択を含め、何をするかなどの決定権は各界限が持ち、三の丸エリアプラットフォームとしては、各界限が打ち出したプロジェクトの支援可否を公開プレゼンテーションで審査し、採択されたプロジェクトに伴走しつつ、技術的支援やイニシャルコストのみを対象とした資金的支援、広報支援を行うという仕組みになっている。

2023 年度からは、ビジョンで描いた界限ごとの目指す姿を形にする社会実験を同時多発的に実施し、定常化に向けた仕組みづくり、体制構築、空間改修や環境改善を公民連携で行っている。また、社会実験時には、アクティビティの多様性を指標にした調査を行うことで、経済価値ではなく、「任意活動(そうしたい気持ちがあり、場所や時間が許すときに行われる活動)」や「社会活動(他者の存在を前提とした活動)」が生まれる利用価値で効果を測定している。

■質疑応答・ディスカッション

まちづくり活動の持続性の観点からエリアマネジメントなどの事業を担う組織のあり方について意見交換が行われた。また、近年注目を集めているサードプレイスについて、その解釈の議論や、優良事例として愛知県豊田市の「新とよパーク」の紹介が行われた。その他、高齢化が深刻な地域や人の入れ替わりが多い地域など地域特性の違いによる地域活性化、コミュニティのあり方についての意見交換が行われた。



会場の様子

(文責:金井 れもん)

■講演・シンポジウムなど ■(共催事業)

徳山駅周辺でのエリアマネジメントの展開5

日時: 令和6年10月19日(土) 13:00~15:00

場所: 徳山駅前図書館3階交流室2

プログラム:

1. 趣旨説明
2. 講演会1「PPP事業1年目の成果とこれからの展望」
講師 周南ツナガルコンソーシアム 管理責任者
有山篤志氏
3. 講演会2「徳山駅前地区第1種市街地再開発事業」
講師 周南市産業振興部中心市街地活性化推進課
係長 袋谷康治氏
4. 意見交換「つながってきた、徳山駅前のまちづくり」
徳山高専 目山直樹
5. 見学会 (参加 18名) 15:10~16:00

主催: 徳山高専テクノ・アカデミア

共催: 周南市、日本都市計画学会中国四国支部

参加者: 27名

1. これまでの経緯(主旨説明等)

(1) セミナー企画「テーマ」の時系列整理

- | | |
|---------|---------------------|
| 2018 年度 | ひとをつなぐ・まちをつなぐ |
| 2019 年度 | 再開発事業が展開する徳山駅前のこれから |
| 2021 年度 | 徳山駅周辺で周南市が進める PPP |
| 2023 年度 | まちのにぎわいを「民」のチカラでつむぐ |
| 2024 年度 | つながってきた、徳山駅前のまちづくり |

(2) 徳山駅周辺での市街地再開発の動き

再開発事業の胎動は、1980年代にまで遡るが、TOKUYAMA DECK と名付けられる再開発ビルが形作られるのは、2019年のことである。2019年6月の再開発事業都市計画決定から、2024年1月の施設建築物工事完了までが4年半と、短期間に進んだことが特徴的である。

この事業のターニングポイントは、2013年ころ、再開発の準備組合が組織されたことによる。2010年には「徳山まちづくり会社」組織され、その社長に30代の企業の4代目経営者が就任し、つぎつぎに企画を打ち出してきた。水面下での調整の成果のひとつが、この再開発事業である。

(3) ツナガルコンソーシアムに至る「つながり」

2018年2月に、周南市立徳山駅前図書館で導入された指定管理者制度が奏功し、徳山駅前ににぎわいを創出した。開館後、中心市街地活性化基本計画の目標値を次々にクリアする。その受け皿となったのがCCC(カルチャー・コンビニエンス・クラブ)である。CCCの指定管理の先行事例は、佐賀県にある武雄図書館である。

平成31年度より国土交通省「官民連携モデル形成支援」事業に基づき、徳山駅周辺の19公共施設で行われてきた22の委託事業をひとつにまとめ、受け皿となる「実施主体」を指定管理者とする一連の検討があった。

2. 「PPP事業1年目の成果とこれからの展望」

2023年度、企業3社による実施主体「ツナガルコンソー

シアム」(CCC、造園業、駐車場運営)により、5年間で約1億8000万円の事業を開始した。初年度の成果をまとめると次のとおりである。(数値は2023年度/2022年度)
 ①駐車場利用収入115%、②駅前広場・自由通路・公園の使用許可件数2.5倍、イベント151件/65件、③費用の周南市への還元約1000万円、④3月のイベント(蚤の市)では36000人の参加者を見た。

3. 「徳山駅前地区第1種市街地再開発事業」

2024年1月、事業費約122億円、補助金34億円を得た市街地再開発事業の建築工事が完了し、ホテル棟は117室、住宅棟100戸は建設前に完売した。

再開発事業としてはまとめ、早期に事業化している点は評価が高いが、一方で、600%の容積率を360%の使用にとどめており、1.2haという規模で容積率を使い切っていない点は、「再開発」のメリットを生かし切れていない一面もある。

4. 意見交換「つながってきた、徳山駅前のまちづくり」

以下の事柄が意見交換でできたので、総括する。

(1) イベントが増えた訳⇒窓口の統一や他機関との連携

イベント回数で2.5倍に増加したのはなぜか？実は、いくつも分かれていた窓口が統一されたことが大きいと考えている。ワンストップサービスが進んだため、これもちがいですか？こちらの相談も承りますと、利用が増えている。もう一つは、他機関との連携である。「七夕」では、自由通路に1000枚の短冊を飾った。これは、JRとの連携によるものである。

(2) 起爆剤になったものは「駅前図書館」

駅の乗降客数が増えたわけではないが、駅前の滞留人口は増えている。これは、駅前図書館の効果である。2018年2月の開業以来、徳山駅周辺のにぎわいの核となっている。指定管理者であるCCCがツナガルコンソーシアムでも核となっていることを考えると、駅前図書館での経験がそののちの事業展開に生かされる結果となった。

(3) 事業者が利益を得られる仕組み・市民への還元

駐車場収入の増加が、事業者の利益につながっているが、行政側、言い換えると市民への還元も進んでいる。ツナガルコンソーシアムから周南市への還元は、2023年度に1000万円を超えている。

(4) 短期間で再開発が事業化できた訳

2010年の「まちあい徳山(タウンマネジメント会社)」の設立と活動がターニングポイントであり、地域のリーダーたちが水面下で努力し続けたことが、2018年の準備組合設立につながっている。

(5) 事業を継続・発展させるための改善の視点は？

事業を継続・発展させるためには、マンション入居者など新たな住民との関係構築など、指摘を受けた。

主催者である徳山高専・目山から、今後、「徳山駅周辺でのエリアマネジメント」の取り組みをまとめる予定であることを報告した。今後もこの取り組みに注視していきたい。

(文責 目山 直樹)

■ スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム 2024 ■ (後援事業報告)

日時：2024年10月18日(金) 15:30~19日(土) 15:45

場所：広島大学東広島キャンパス内、西条 HAKUWA ホテル

主催：全国Town & Gown 構想推進協議会

共催：広島大学、東広島市、呉市、島根大学、出雲市、愛媛大学、今治市、立命館アジア太平洋大学、一般社団法人スマートシティインスティテュート

後援・協賛：公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部、公益社団法人土木学会中国支部、地域活性学会

参加者：約200人(2日間の延べ人数)

開催趣旨

本フォーラムは産官学の3者、あるいは自治体と企業、自治体と大学、地域と大学など、組織風土の異なる者同士で日々悩みながら「地方創生」に尽力されている方々にその取り組みの中で培われた知恵と経験と課題をご共有いただき、今後の活動に交流のきっかけが生まれることを目的として、昨年に続いて開催された。

主催者である全国Town & Gown 構想推進協議会は、自治体と大学が持続可能な未来のビジョンを共有した上で包括的、日常的、継続的、組織的な連携関係を構築して地方創生への貢献を目指し、「Town & Gown 構想*」の推進と同構想を日本全国に広めることを目的として、2023年10月28日に設立した。現在の会員は広島大学、東広島市、呉市、島根大学、出雲市、愛媛大学、今治市、立命館アジア太平洋大学の8団体である。

10/18 記念講演

10月18日は西条 HAKUWA ホテルにて、スポーツジャーナリスト、広島大学特別招聘教授、株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役二宮清純氏による東広島市制施行50周年広島大学75+75周年 記念講演「大学と地域が連携して取り組むスポーツの力による地域活性化」が当フォーラムの開幕イベントとして開催され、地域連携に取り組む方だけでなく、地域住民の皆様なども含めて約100人に参加いただいた。

10/19 事例発表及びセッション

翌日の10月19日には広島大学東広島キャンパスにおいて、全国各地からお越しいただいた皆様による地域課題解決の口頭事例発表21件、ポスターセッション5件と有識者5人によるセッション3件が行われ、約90人が参加された。

まとめ

両日は(特に2日目は大雨の中)、様々な地域から大勢の方々にご参加いただき、地方創生に関わる情報共有及び意見交換が活発に行われた。来年度も同時期に開催予定である。今回をきっかけに生まれた交流を今後も継続、発展させていきたい。

【両日の様子】



10/18 二宮 清純氏の講演



10/19 午前の事例発表



10/19 ポスターセッション



10/19 午後のセッション 「ポートランドに学ぶ持続可能な都市のつくり方」株式会社 Green Cities 代表、横浜国立大学客員教授 山崎 満広氏

※Town & Gown 構想：日本を地域から躍動させるため Town(=まち)と Gown(=大学)が手を取り合い、持続可能な未来のビジョンを共有しながら自治体の行政資源と大学の教育・研究資源を融合して活用することで、社会変革を伴う地方創生を生み出し、日本を地域から躍動させるための産官学民の新たな連携のシステム。

■ ホットコーナー ■

釜山のまちづくり

ホットコーナーは、本来都市計画のホットな話題を掲載するところですが、なぜか旅行記率が高いのです。今回は、10月に行った釜山の話を書きます。なお、Wikipedia を多用しています。

1 釜山への行き方

広島から行くのなら、ソウルまで飛行機で行ってそこから電車で釜山という手もありますが、そこはやはり海で日本と繋がった街ですから、やはり船で行ってみたいくなり、行きは博多港からフェリー（カメリア）で行き、帰りは下関に釜関フェリー（ちなみに下関発は関釜フェリー）で帰りました。

丁度台風が通りすぎる荒波の中、まあまあ揺れました。フェリーにはお風呂がついているのですが、2つの湯舟に荒波ができ、右の湯舟から左の湯舟に、左の湯舟から右の湯舟に移っていたのがとても面白かったです。

日中での移動は6時間、夜間の移動は10時間、結構長丁場の移動ですが、中には飲食店や売店もあり、船の中も色々歩き回ることができ、楽しむことができます。



2 通貨など

韓国はカードしか通じないと旅行ガイドに書いてあるので戦々恐々として海外の人向けカードのWowpassを作りました。Wowpassは、空港や駅の近くの自動販売機で入手できます。ちなみにその自動販売機は両替もできます。アプリで残額が把握できるほか、交通系のパスカードになるT-moneyとしても使えます。空港セットにすると、simも付けることができます。(simについては、最近の日本のsimでも海外の数GB通信料がついているものがあるので、私はそれで足りました)

Wowpassを日本で入手して行ったのですが、最初のチャージが現金でしかできなかったため、アプリでWowpassの自動販売機を探し雨の中、さまようという悲劇がありました。活用される方は、是非Wowpassの自動販売機で①両替②Wowpassへのチャージ③T-moneyへのチャージをお忘れなく。

あと、タクシーは韓国語が使いこなせない外国人でも大丈夫な k-ride というアプリがあり、google などで目的地を探し、韓国語をコピーして目的地を貼り付けると、現在いるところから目的地までタクシーが迎えに来て連れて行ってくれる。金額が最初から出ている上、会話しなくても目的地まで連れて行ってくれるほか、お金はカードから引き落としなので、お金のやり取りも必要ない。便利だった。



釜山港 クジラのイメージかな…

3 釜山港と釜山駅

釜山港から釜山駅はペDESTリアンデッキで繋がっており、屋根も付いています。ただ私が行った時には嵐だったので雨は吹き込んでましたが…。



駅と港を結ぶペDESTリアンデッキ その下は開発中

釜山駅には鉄道と地下鉄が繋がっており、遠距離は鉄道、近距離は地下鉄が先ほどの T-money で気楽に廉価に乗れます。地下鉄は頻繁に来るため、時間的なストレスもありません。不便なことは、改札が上り下りのそれぞれに着いているため、間違った方向の改札に入ってしまうと目的の列車には乗れないことでしょうか。乗り過ぎたら一度改札を出て逆方向に乗り直さざるを得ないのが大変。



釜山駅 駅前広場は歩行者用 ドラマかなにかの撮影中だった

4 チャガルチ市場

チャガルチ市場 (チャガルチいちば) は、大韓民国釜山広域市南部、中区南浦洞から西区忠武洞にかけての海岸部にある、韓国最大級の海産市場。「チャガルチ」は砂利・小石を意味する。チャガルチ市場ビル周辺部にも露店街が発達しており、観光地となっている。

この付近にできた最初の市場は、1924 年 8 月に開設された南浜市場である。しかし、この市場の「チャガルチ市場」としてのアイデンティティの起源は、朝鮮戦争の頃、釜山に集まった避難民や戦争未亡人、在外韓国人たちが、南浦洞の露店で海産物の取引や加工を行い、「チャガルチ魚貝類処理場」と呼ばれたところに求められている。

1960 年代、露店街は当局との間に摩擦も生じさせたが、1969 年に露店主たちによって社団法人釜山魚貝類処理組合が結成され、海岸部の埋め立て地に 1970 年に 3 階建てのビルが建設されることで、露店群が市場として整備されるようになった。1986 年 1 月に改築を行ったあと、2006 年 8 月、地下 2 階・地上 7 階の現在のビルに建て替えられた。

ビルの 1 階は、見渡す限りの魚市場。それぞれ小さい魚屋の商店が水槽に満杯の魚を入れ、客を待っている。魚屋の列道の両脇にあり、150m ぐらいの長さ。それが 3 列ある。





魚を選び、料理方法を選ぶと、2階の食堂で食べさせてくれる。料理は、刺身、焼き魚、カンジャンケジャンなど。生きたヤナギダコを踊り食いし、カンジャンケジャンでカニを食べていただきたい。

食堂に直接赴いて定食も食べられる。定食は、オモニがお盆に並べ、頭の上に乗せて運ぶ。数人分を運んでいることもある。すごい。



チャガルチには戦後の闇市から進化した国際市場や、その後発展した富平カントン市場のほか、かき氷と汁粉に特化した市場や豚足に特化した市場など、どの通りもほぼ市場な感じでした。

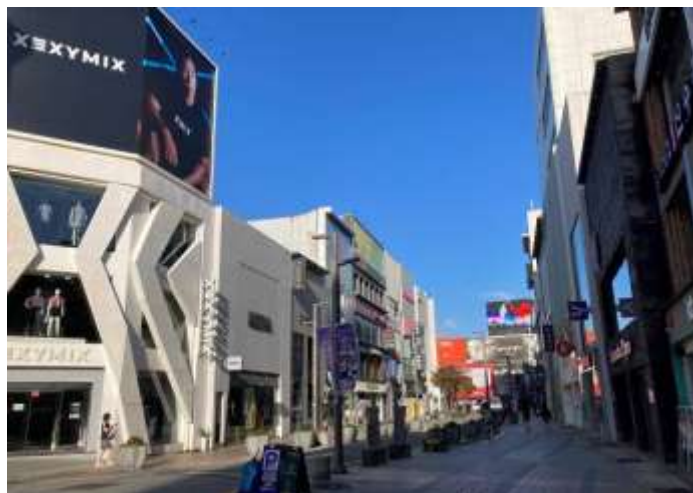


国際市場と富平カントン市場 アーケードができています

5 南浦洞

南浦洞(ナンポドン)は、大韓民国釜山広域市中区に位置する繁華街で、釜山港沿いに位置する港町。チャガルチ市場や国際市場など、釜山でもっとも有名な観光地があるため、週末は国内外から訪れる観光客で賑わっている。

光復路は元は小川だったらしいが、埋め立てて道にしており、今は一部車も走れる広幅員の歩行者用道路だ。今どきの商業施設が立ち並び、夜 10 時頃まで開いている。



南浦洞のシンボルは、町の中心に位置する龍頭山公園にそびえた釜山タワー。タワーからは南浦洞を含めた、釜山港を一望することができる。龍頭山公園では色んなところでプロジェクションマッピングをしているほか、タワーの中での展示もインタラクティブなものをしており楽しめた。夜景も見渡せて美しかった。エスカレーターで上まで登れて便利。



国際市場の付近には、BIFF 広場という釜山国際映画祭を記念したスクウェアがある。釜山劇場と大淵シネマの 2 つの映画館が向かい合う場所にあり、ふだんは露店が出て大

変賑わっている。映画祭の開催期間中はこちらの広場に特設ステージが設けられ、映画俳優や芸能人が登場して様々なイベントが展開される。

丁度旅に出た次の週の現地時間 10 月 2 日の第 29 回釜山国際映画祭オープニングセレモニーのレッドカーペットイベントに『劇映画 孤独のグルメ』監督・脚本・主演の松重豊が来たそうだ。



6 海雲台 (ヘウンデ)

朝鮮八景の一つに数えられるという古くからの景勝地。新羅の文人・崔致遠 (号・海雲) が冬柏島 (朝鮮語版) (トンベクソム) を訪れて景観を賞し、岩に「海雲台」と彫った (海雲台石刻 (ko:해운대 석각))。これが地名の由来とされている。海雲台海水浴場の西端に位置する冬柏島 (冬柏公園) には崔致遠の銅像がある。

この地は温泉でも知られ、新羅の真聖女王が湯治を行ったと伝えられる。1897 年に海雲台温泉が開発されたことで近代温泉地としての歴史が始まる。長らくひなびた観光地であったが、1994 年に観光特区に指定され、大規模な再開発が行われた。

海雲台海岸は水営湾の東側にあり、水営江の河口を挟んで同じ湾の西側には広安里海岸がある。



地下鉄の駅から砂浜のある海まで大きな通りが通り、両脇にホテルのビルや商業施設が建つ。



海雲台から、ブルーラインという観光列車が走る。海岸の林の中を走る列車で、席は海の方に階段状に並んでおり、海を眺めながら海岸の緑地内を走っていく。眺めが良い。ところどころ駅があり、海に突き出た展望台に出ることができる。観光列車の脇はデッキが敷いてあり、散歩ができる。



また、並行してスカイカプセルという高架を走る 6 人乗りの列車もある。カワイイので若い人やカップルや家族連れで大賑わいだった。



7 甘川文化村 (カムチョンムナマウル)

釜山広域市沙下区の集落。カラフルな町並みで知られ観光地となっている。

韓国の釜山広域市沙下区に位置する。もともとは 1950 年代に朝鮮戦争の避難民と太極道教徒で作られた町だった。

2009 年に「夢を見る釜山のマチュピチュ」という公共美術プロジェクトが、2010 年には「ミロミロ (美路迷路) 路地プロジェクト」が実施され、その後も公共美術事業が続いた。

現在では芸術的な雰囲気醸し出す町となり、「韓国のマチュピチュ」「韓国のサントリーニ」「韓国のチンクエ・テッレ」などと呼ばれることもある。



カラフルな町並み

8 その他

すごい勢いでタワーマンションなどのビルが建っている。100階建てのマンションや、曲線を描いたガラスの壁を持つビル群など。釜山を漁港の街だと考えていたが、商業の街としてどんどん進化中のように感じた。次来る時のさらなる進化が楽しみだ。



また、料理が海鮮も肉も美味しい。アヒルのコースやアワビの刺身のビビンバや粥、ユムシの刺身やタコの踊り食いなど色々食事を楽しんだが、まだまだ食べていない料理がいっぱいある。また訪れたい。 (文責：福馬晶子)

■ 会員紹介 ■**小林 剛士 (こばやし たけし)**

山口大学大学院

創成科学研究科 准教授

■ 略歴

1981 年生まれ/山口県下関市出身/

2007 年山口大学大学院博士課程修了/

2006 年豊橋技術科学大学非常勤研究員/

2007 年独立行政法人日本学術振興会特別研究員 (PD) /

2009 年山口大学助教を経て 2019 年より現職

■ 自己紹介

山口大学にて恩師の鳩心治先生の下で都市計画を学び、母校にて現職を務めております。父親の仕事の都合もあり、兵庫、山口、アメリカ、また山口と転々と暮らしていましたが、最も長く過ごした本州西端のまちから全国地方都市に目を向けて計画研究、まちづくりの実践に取り組めることに喜びを感じています。ホームタウンを持ち、シビックプライドが感じられることは、私の生活に豊かさと安心感を与え、一市民としての責任感をもたらしてくれます。元々は都市防災に興味があり門戸を叩いた都市計画研究ではありますが、扱う領域は膨大かつ変化に富み、一生かかっても学び尽くせるものではないと感じます。

本会でご活躍される専門家の皆様や都市に住まう多くのプレーヤーの方々と連携を図りながらそれぞれの誇れるホームタウンを次世代につないでいけるような、そんな仕事がしたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

■ 取組紹介

山口県宇部市の船木地区において市、地元住民と協働で「船木の木」という組織を立ち上げ、まちづくりの取り組みを進めています。同地区は旧楠町の中心部ではありませんが、炭鉱の町宇部の成り立ちとも関係が深い宿場町であり、市内唯一の歴史的町並みが残る地区です。一方で、都市集約の枠組みから外れた地域であり、庁舎の統合移転に伴い生じた跡地の活用と将来の地域自治に課題を抱えています。船木の木は、令和 2 年に策定したエリアマネジメントプランの実行組織として活動を始め、フラッグシップ・プロジェクトとして街道沿いの古民家をコミュニティカフェとして改装し、子ども食堂や地域学講座など子どもの居場所づくりを行いました。また、街道では「船木オータムフェスタ」をはじめ、年に数回の社会実験を行いながら庁舎跡地の活用、空き家対策・活用、景観保全、子育て支援等の地域課題について検討を進めています。令和 5 年度からは、周辺 5 地区の事業者、地域住民と連携し、「北部オープンプラットフォームラボ」を立ち上げ、郊外部の産業振興や地域コミュニティ形成の取り組みをスタートさせました。空き家対策や新交通サービス、耕作放棄地の再生、自然歩道や森林保全など郊外部での健全な土地利用が関係人口の増加とスプロールの抑制に寄与することを期待しています。

**芳原 拓実 (よしはら たくみ)**

広島市 市民局 文化スポーツ部

文化振興課 技師

■ 略歴

1993 年生まれ/広島県広島市出身/

2016 年広島大学工学部第四類卒業/

2018 年同大学院工学研究科建築学専攻博士課程前期修了/

2018 年広島市役所入庁/2019 年広島大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程後期入学 現在に至る

■ 自己紹介

私は、生まれてから現在まで、広島県広島市で暮らしてきました。幼い頃から、自分が住んでいるまちが少しずつ変わっていく様子（駅前再開発や市民球場移転等）を新聞で確認したり、実際に間近で見たりするうちに、自然と都市計画やまちづくり、まちを構成する建物に興味を持つようになりました。

大学時代は、災害時に危険な地域である密集市街地を対象に、寝屋川市での行動者量調査や避難シミュレーションを行い、整備のあり方提案を行いました。その他にも、日本建築学会のシャレットワークショップや米国での国際会議に参加するなど、都市計画分野の研究から実践まで幅広く学ぶことができました。博士課程前期修了後は、生まれ育った広島で都市計画に携わりたいと思い、2018 年に建築職として広島市に入庁しました。社会人 2 年目の 2019 年には、密集市街地整備に関する研究を続けたいという思いなどから、博士課程後期に進学し、現在も博士号取得に向けて研究を進めています。

■ 取組紹介

広島市役所に入庁後は、営繕課で公園便所や消防出張所等といった公共施設の設計・施工監理、平和推進課で被爆建物・樹木の管理等に携わりました。現在は、文化振興課で文化施設の維持管理等を行っていますが、多くの施設で老朽化が深刻化しており、人口減少時代のこれからの公共施設のあり方検討（将来的な施設統廃合や再配置検討等）が今後の重要課題になると感じています。

博士課程後期では、博士課程前期の研究テーマを継続して行っており、我が国の大都市や地方都市の中心市街地に残る密集市街地について、複数地区を対象に整備モデルを作成し、経済性や将来の人口規模、住環境等といった多面的な視点から評価をすることで、地区特性に応じた整備のあり方の提案を目指しています。

当学会中国四国支部では、企画・研究委員会の委員を務めており、2020 年度に「レジェンドに学ぶ都市計画のこれまでとこれから」、2023 年度に「3D 都市モデルの活用と課題」にパネラー等として参加しました。今後も学会活動を通じて、自身の見識を深めるとともに、少しでも中国四国地方の都市計画・まちづくりに貢献できればと思います。



■ トピックス ■

市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を市街化調整区域に編入する「逆線引き」の先行実施

元日本都市計画学会中国四国支部広島豪雨災害・防災まちづくり検証特別委員会 副委員長・土地利用検証部会長 松田 智仁

1999 年 6 月の豪雨により広島市佐伯区・安佐南区・呉市を中心とした地域で土砂災害が多発し 30 名以上が死亡・行方不明となった (6.29 豪雨災害)。この災害を契機として法整備が検討され、翌 2000 年 5 月に「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」が成立した。本法律に基づき、人家に影響を及ぼすおそれのある区域である「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の指定が始まった。その後広島県においては、2014 年 8 月豪雨、2018 年 7 月豪雨をはじめとする度重なる豪雨災害により甚大な被害が発生し、多くの人命・財産が失われた。災害リスクの高い区域における都市的土地利用を抑制する、市街化区域内の土砂災害特別警戒区域について市街化調整区域へ編入 (逆線引き) する取組が求められている。その必要性は早くから求められており、2013 年 8 月策定の広島市都市計画マスタープランには「市街化区域の中で、土砂災害特別警戒区域に指定された地区については、市街化調整区域への編入を進めます。」とされている。広島県内の 2021 年 3 月 31 日現在の土砂災害特別警戒区域の箇所数は約 45,000 箇所として全国一の指定数となっている。

土砂災害被災リスクの低下を目的に含む逆線引きについては、先行自治体として 2019 年方針公表の北九州市の事例 (2025.1 都市計画決定予定) などがある。この逆線引きについて、具体の姿が見えてきたことから、2021 年に取り組み方針を公表し、現在都市計画変更の手続き中である広島県都市計画課を 10 月 4 日取材した。

以下は、取材並びに公表資料による取組の概要である。

広島県では、平成 30 年 7 月豪雨をはじめとする度重なる豪雨災害により甚大な被害が発生し、多くの人命・財産が失われました。そのため、災害リスクの高い区域における都市的土地利用を抑制するとともに、災害リスクの低い区域へ居住を誘導するなど、災害に強い都市構造の形成が喫緊の課題となっています。

こうした背景から、令和 2 年 10 月に策定した本県の総合計画である「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」において、持続可能なまちづくりに向けた施策として“災害に強い都市構造の形成”を掲げるとともに、令和 3 年 3 月に策定した都市計画区域マスタープランに掲げた将来像の実現に向けて、市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を対象に市街化調整区域に編入 (以下「逆線引き」とい

う。) する取組を推進することを位置付けました。

逆線引きの取組は、市街化区域を有する県内の 13 市町 (大竹市、廿日市市、広島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、呉市、東広島市、三原市、尾道市、福山市、府中市) と連携しながら進めています。

取組方針の概要

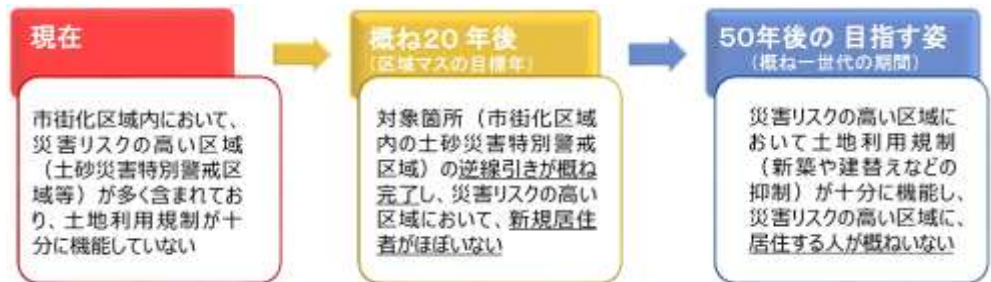
逆線引きの取組の進め方やスケジュールなどについて関係市町と連携しながらとりまとめ、令和 3 年 7 月に開催した広島県都市計画審議会において「市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を市街化調整区域に編入する取組方針」 (以下「取組方針」という。) を報告しました。

【目指す姿】

50 年後の目指す姿を次のとおり設定して、市町の都市計画マスタープランや立地適正化計画の防災指針などを踏まえ、市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を対象に逆線引きを着実に進めていきます。

【取組の進め方】

○市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を対象に、段階的に逆線引きを進めていきます。



○段階的に進めるにあたっては、都市的土地利用の広がりを防ぎ、低未利用地への居住や店舗等の新築を抑制する観点から、市街化区域の縁辺部で住宅、店舗、工場等の都市的土地利用が行われていない箇所 (山林、田、畑などの土地) から先行的に逆線引きを進めていきます。



○行政広報誌やホームページ等を活用して取組の周知を行うとともに、説明会や公聴会、縦覧等の都市計画手続きを実施した上、取組を進めていきます。

○市街化区域内の土砂災害特別警戒区域数 約 10,000 箇所 その内市街化区域区分線に跨る区域数 約 5,000 箇所

○令和 6 年度スケジュール 都市計画手続き、令和 6 年度

末告示 ※以上出典 広島県ホームページ

【聞き取り事項】

- 今回逆線引きの先行実施箇所数は?・・・約 500 箇所
- 土砂災害特別警戒区の指定解除が見込まれる場合は逆線引きの対象としないとは?・・・砂防施設の整備や開発行為等による対象地の地形変更などの場合

1980 年代地方行政都市計画課業務経験では、開発行為を抑制したい大規模法面などにおける逆線引きの実施はあったが、市街地縁辺部の未利用地における逆線引きの経験はない。今回の広島県の逆線引きの取組は、対象地全体数約 10,000 箇所からすれば、先行実施箇所数約 500 箇所は多いとは言えないが、合意形成のハードルが高いとされる逆線引きが着実に進められることが県民の安心・安全につながることから、次のステップの加速を大きく期待するものである。目的とする土砂災害からの生命・財産の保護つまり、災害リスクの高い区域における都市的土地利用の抑制の観点からすると、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」の枠組みの内に住宅移転と補償制度が位置づけられることが理想である。しかしそうした制度に至らなかったという現実に対処していくことも現実の一つである。今回逆線引きの先行実施対象地としなかった約 5,000 箇所に及ぶ市街化区域内部のレッドゾーン地区については防災事業等の推進はもとより、豪雨や高潮による浸水対策も含めて建蔽・容積率緩和をセットした建築物の RC・高床化誘導策の導入など総合防災の観点から有効な土地利用規制・誘導策の実施が求められる。さらには、非線引き都市の市街地や集落地区のレッドゾーン指定も数多く、こうした地域への居住に関する規制誘導策の導入など災害に強い生活基盤の形成や生活機能集約誘導なども求められている。

2014 年 8 月の 8.20 広島豪雨災害の土地利用に係る検証作業をとりまとめた立場から、今後とも、激甚化する自然災害に人類がどう対処していくのかを注視していきたい。余談だが 5 年前の江波山気象館館長時代には東南アジア諸国の政府気象関係業務職員 JICA 研修において、広島豪雨

災害・防災まちづくり検証レポートを活用して防災手法を解説してきた。異常気象災害への対応については地球全体への温暖化対策はもとより、気象予報技術の向上、普及や防災対策の共有化が期待される。また、我が国の特徴的な課題としては、豪雨災害やスーパー台風災害に限らず、1 月の能登半島地震被災地への豪雨災害のように大規模地震・津波災害への備えとともに、二重被災への対応も喫緊の課題である。一日も早い復興と、叡智に期待したい。

■ 今後の活動計画 ■

■ 都市計画研究会(調整中)

□ 第 1 回

日時：2025 年 1 月 25 日(土) 16:00～
 講演者：松縄暢(日建設計総合研究所)
 場所：広島市内(オンラインとの併用)

□ 第 2 回

日時：2025 年 2 月 1 日(土) 16:00～
 講演者：加登遼(大阪公立大学)
 場所：広島市内(オンラインとの併用)

■特別講演会を計画中です。その他の企画につきましても決まり次第、支部 HP に掲載いたします。

2015.8 土地利用検証例会

1. Operation improvement of legal system to protect housing and building from sediment disaster

3) Active utilization of district planning system

- Establish district maintenance planning to improve the disaster prevention function of buildings

Ex.

- Building repair for sediment disaster prevention
- Limit building coverage ratio
- Evacuation route
- Mudflow prevention facilities

4) Publicize the risks

- Unify the indication of urbanization area and sediment disaster caution area
- Publicize to the residents about that preparation against the disaster differ according to the applied development permission system

5) The formation of civil consensus about land use control to protect their lives and fortune

図 地区計画手法による建築物浸水被害防止の事例紹介



■ 編集後記 ■

久しぶりに順番が回ってきた編集担当にて、不慣れもあり発刊が2か月遅れとなりました。深くお詫び申し上げます。

さて、小生が都市計画ニューズレターの編集委員に加わったのは2014年度からである。動機は、会議後のコミュニケーションであったが、現在ではコロナ禍にて定着したWEB会議により作業している。当番制の編集担当による編集後記だが今回は紙面に余裕があり、また定年退職し現役を引退して年月を経たことから、職業としての業務ではない市民の立場からのまちづくり提案活動の自己評価を掲載させていただくことをお許し願いたい。

先ず取り上げる提案は、小生が2009年6月に行ったNPO鞆まちづくり工房松居秀子代表に行ったまちづくり提案である。当時は、2007年5月広島県と福山市が藤田知事に鞆の浦架橋に係る埋め立て免許を出願、2008年6月広島県が国土交通省に埋め立て認可を申請し、埋め立て架橋事業が動き出そうとしていた時期である。小生の提案の動機は、近世港湾遺産が残る潮待ちの鞆の浦及び港町鞆の街並みの風景の保全である。鞆の浦地区での埋め立て架橋反対派は少数派であった。2007年9月の街並み現地調査からはじめ、妻を伴い道路幅員をテープで測るなど以降4回の現地調査や文献調査を重ねた。さらに建設コンサルタントの知人の勇気ある協力を得て新規トンネルの概略設計を加え、まちづくり提案書をまとめた。港町の歴史や文化を保全・継承したいと活動されていた松居秀子様を応援したく差し上げたものである。なお調査を進めている間の2008年3月に、伝統的建造物が集中する地域約8.6haが福山市鞆町伝統的建造物群保存地区に定められた。こちらは当時一安心した記憶である。

提案の内容は、1 市街地近接山側トンネル(920m、37億円)の整備、2 中心市街地での自動車交通の規制・誘導、

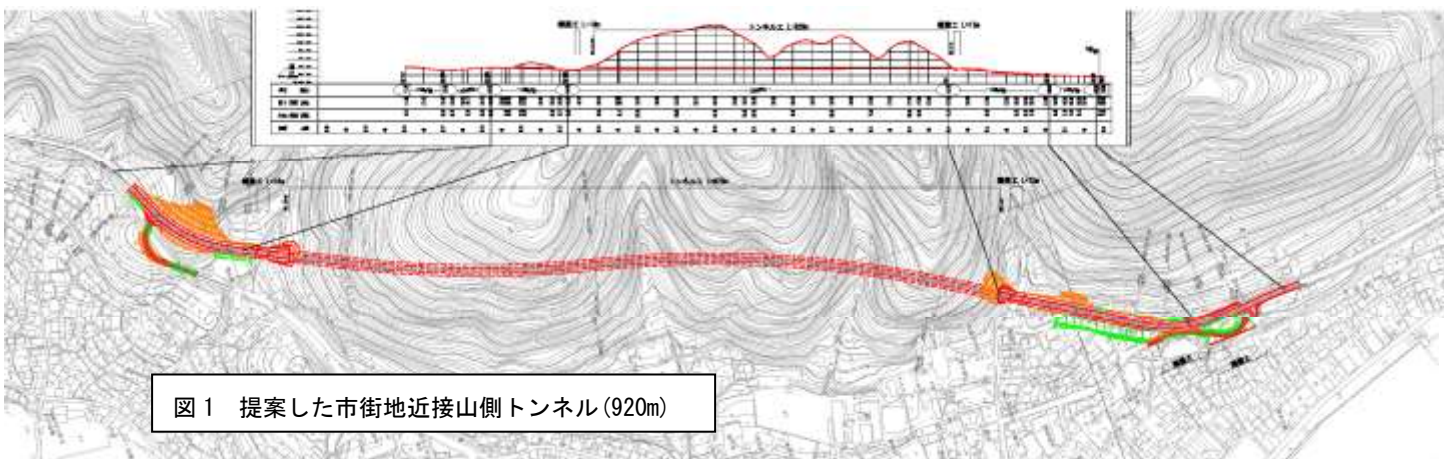


図1 提案した市街地近接山側トンネル(920m)

①路線バスコースの一方通行導入による変更、②幅員6m未満道路の一方通行化、③幅員2m未満道路の歩行者優先道化・美装化、④電線類の地中化等、3 観光客動線パーク・アンド・シップライド整備(往路 いろは丸鞆港上陸、復路 徒歩)、①観光客用東側駐車場の立体化、②立体駐車場建設地区への栈橋整備であった。

提案直後、埋め立て架橋計画は思いのほか大きく転換し

た。2009年10月反対派の訴えに応じ広島地裁が景観利益を認め免許差し止めを命令、前原誠司国土交通大臣が埋め立て免許の認可を当面見送ると表明、2012年6月湯崎知事は、埋立架橋計画の中止と山側トンネル道路整備の意向を固めた。このトンネルは結果的に、市街地近接型とはならず、また当初の山岳トンネル案(1520m、50億円)よりさらに北に長く延長は2114m、工事費73億円で、北出入口は御幸地区となった。2022年度着工、2024年度末開通予定である。バスルート変更や一方通行導入については、2012年7月一方通行の導入検討が表明され、2015年7月の一方通行等試験運用を経て県道47号の一部区間に一方通行が導入された。これに伴いトモテツバス沼南線県道47号の一部区間で上下別ルートが採用された。ちなみに鞆の浦弁天島花火大会時は一方通行が導入されている。細街路については2023年度から美装化が順次実施、電線類の地中化については、2012年7月無電柱化導入表明、2014年度県道から電線類地中化順次着手決定、2017年に選定された重伝建地区への事業検討(市)となっている。パーク・アンド・シップライドについては、2012年7月埠頭整備方針及び東側駐車場の立体化及び新規駐車場整備方針が表明され、2017年2月鞆鍛冶駐車場立体化が完了した。2019年度東西交通・交流拠点整備検討に着手、2022年4月東西の交通拠点新栈橋整備が公表され、鞆の浦港(西拠点)に向かういろは丸航路の出発点は、提案より北側の原地区埋め立て駐車場埠頭からとなった。

まちづくり計画については、19回(2009~2012年度)にも及ぶ広島県主催の埋立て架橋推進派と反対派による鞆地区地域振興住民協議会での議論や結果を受けての港湾計画の変更手続きなどにおいて固まってきた。さらに、具体の施設整備については、2018年度からの鞆まちづくりビジョン勉強会やこれに続く鞆学区地域まちづくり計画の策定などにおいて議論された。

小生が当時松居秀子代表に提案したまちづくり提案内容と現実に進む事業は、比較すれば、トンネルの延長が北に長いことやシップライドの東側拠点位置が北に設定されるなどの相違点はあるものの、鞆の浦の風景を地域住民の智恵と努力によって保全・継承していく上ではいくらか役に立ったのではないかと感じている。評価については提案者の自己満足の面も多々あるが。

その後も、2017年2月広島平和記念資料館直下視点場からの原爆ドーム風景保全のための景観法による扇形の建築物の高さ制限について、広島市の担当課に提案を行った。

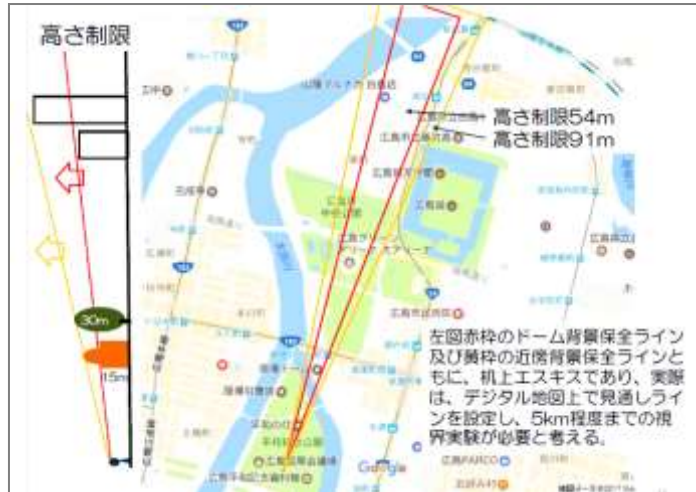


図 2 景観地区設定による建築物の高さ制限提案説明図

これについては、2022年1月広島市景観計画が改定され、原爆ドーム北側眺望景観保全エリアが設定された。このエ

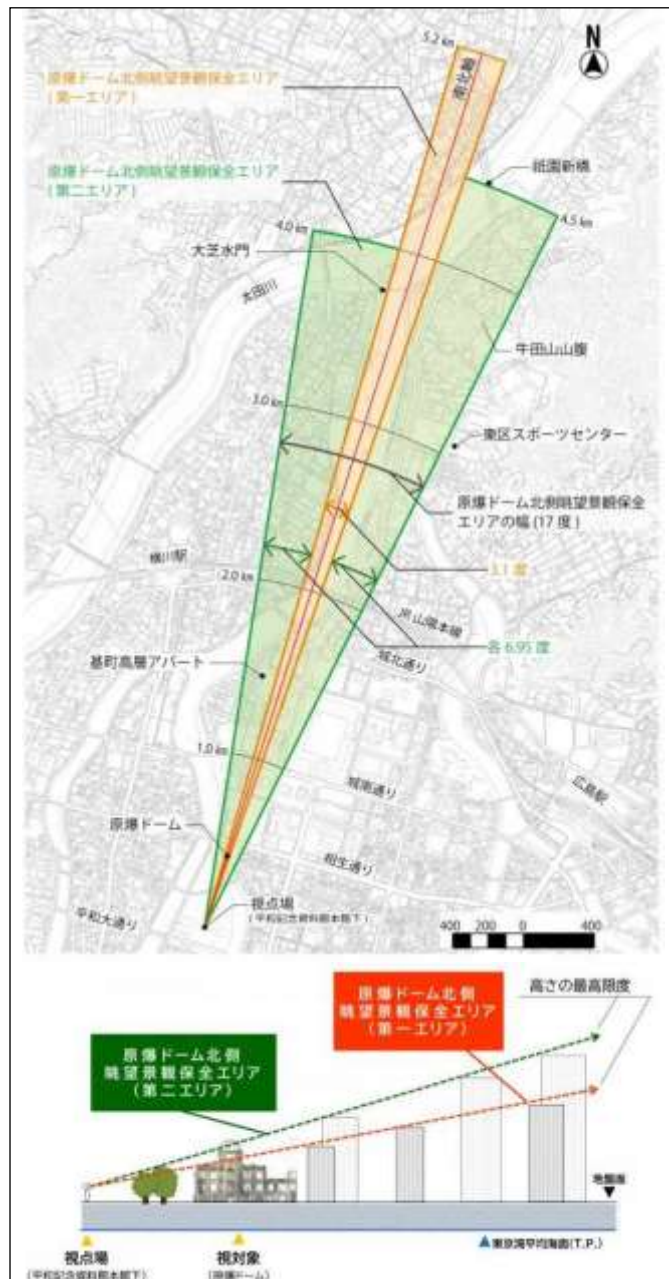


図 3 設定された建築物等の高さ制限(届出・勧告制度)

リア内では届出・勧告制度により、建築物及び工作物を対象に、視点場からの距離に応じた斜線状の高さ制限(標高)等を行うとともに、背景となる阿武山においては、建築物等の建設・設置の制限等が開始された。こちらは規制・誘導手法は異なるものの、目指すべき景観形成の目標は採用いただけたものと理解している。

時が経ち、社会は大きく変化してきたが、いつの世も人間が住み・働き・憩い・学ぶ街の整備・開発・保全のいずれにおいても、常に市民の志の発信が求められていると感じている。もちろん専門家集団の各種分析・研究、提案もこれまで通り継続願いたい。(文責：松田智仁)

次号の配信は令和 7 年(2025 年) 2 月の予定です。ホットコーナーやコラム、トピックスなど、学会員の皆様からの原稿をお待ちしております。何かございましたら、中国四国支部事務局(総務委員長) 田中貴宏

(e-mail:cpij.chugokushikoku@gmail.com) までご連絡いただければ幸いです。

編集委員：吉原俊朗(編集長)、織田恭平、北本拓也、白石レイ、田中健太、田辺博樹、福馬晶子、松田智仁、山下和也

※当編集委員は、総務委員会の要請により参加したメンバーです。ご参加いただける方は編集長にお申し出下さい。